

開催趣旨

昨今の社会情勢は、少子高齢化、国際化、高度情報化等が急激に進展し、その時代の変化に応じた生活・社会基盤の構築が必要となっています。生活・社会基盤を形成する公共施設については、国民ニーズに基づく質・機能の向上が重要です。そのためには、工事コストの低減や事業の効率性の向上のみならず、ライフサイクルコストの低減、リサイクルや環境対策、IT技術による情報共有化、防災等の新技術・新工法の開発を積極的に推進していく必要があります。民間企業が開発した新しい技術を積極的に活用し、評価することによって、技術開発がさらに促進されなくてはなりません。そのことは、技術力に優れた企業が伸びる環境づくりにも貢献します。民間が持っている技術を社会・公共事業に生かすことが、民間の活力の向上、さらには、直接的・間接的な事業効果の向上を図る上で重要なのではないのでしょうか。



近畿地方整備局長 上総周平氏
近畿建設協会 霜上民生 理事長
土木学会関西支部 田中清剛 支部長



「建設技術展2011近畿」は、民間企業が開発した新技術・新工法を展示・紹介する場において、産・学・官の交流を行うことで、これまで培われてきた建設技術のより一層の高度化やより広範囲な技術開発の促進へとつなげ、新技術の各工事への積極的な活用を促すことを目的とするものです。

そのキーワードは

- ① 民間分野において、建設事業に関連した技術開発への取り組みを紹介する
- ② 新しく開発された技術の育成と普及
- ③ 技術開発に向けた建設技術者の意識の高揚
- ④ 発注者のニーズを広報し、新技術の開発・普及につなげる

開催イベント

特別対談

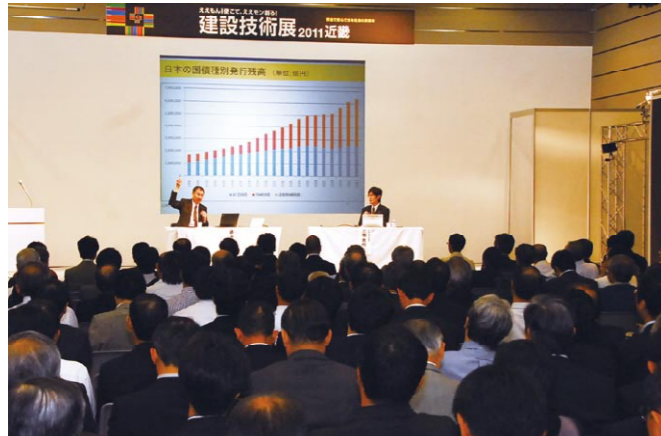
「黄金の復興計画 ～強靱な国づくりとインフラ整備～」

11/2 [水] 13:15-14:30

藤井聡京都大学大学院教授と作家・経済評論家の三橋貴明氏が「世界の購買能力が落ち、円高が進む今、デフレギャップを埋めるには内需拡大しかない。公共事業は、経済を成長させる。内需拡大は日本だけでなく世界を救う」と訴えられました。

藤井 聡氏

三橋貴明氏



関西ライフライン研究会 地震防災フォーラム

「南海トラフ巨大地震に備えて ～東日本大震災で学んだこと～」

11/1 [火] 10:30-12:30

上り口豊氏（関西広域連合広域防災局防災計画参事）が基調講演を行った後、鎌田泰子氏（神戸大学大学院准教授）をコーディネーターに、山岡康伸氏（近畿地方整備局企画部防災課長）、尾原正史氏（大阪市水道局工務部計画課危機管理担当課長）、佐々木育夫氏（神戸市建設局東水環境センター主幹）、石川哲夫氏（大阪ガス導管事業部京滋導管部長）が地震防災の必要性と積極的な情報発信をされました。

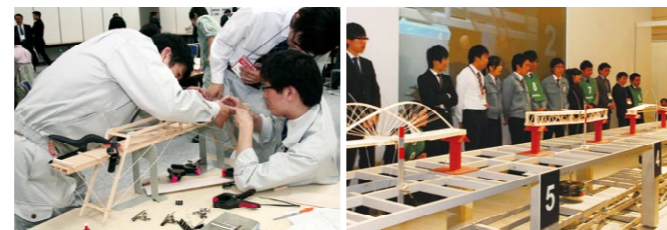


上り口 豊氏 鎌田泰子氏 山岡康伸氏 尾原正史氏 佐々木育夫氏 石川哲夫氏

橋梁模型製作コンテスト

11/1 [火] 10:30-12:30 会場製作部門

11/2 [水] 10:00-12:00 会場製作・学生部門載荷試験



こうした技術展の開催を通じて、ハード・ソフト両面での社会基盤整備に関連した技術の役割や意義を発信していくとともに、発注者ならびにコンサルタント、ゼネコン、資材業者等幅広い方々へPRしていくことで、建設産業の一層の発展に貢献していきたいと考えています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災では、想像を絶する津波により多数の死傷者がでる等、東日本の広域にわたり甚大な被害をもたらしました。このような事態を踏まえ、「建設技術展2011近畿」では、新たな技術分野として「防災」を設け、地震に備える技術や減災技術を紹介するとともに、パネルディスカッションや講演等を通じて、災害を最小限に抑制するための情報も発信していくことで、社会貢献したいと考えております。



近畿地方整備局主催 防災・減災まちづくりシンポジウム

「自然災害に十分に対応するためのまちづくり」

11/1 [火] 13:30-15:30

中川一氏（京都大学防災研究所副所長・教授）、田嶋勝正氏（和歌山県串本町長）、大西賞典氏（加古川グリーンシティ防衛会長）、上総周平氏（近畿地方整備局長）が横川貢雄氏（日刊建設工業新聞社編集局長）のコーディネートで、東日本大震災を踏まえた防災・減災に対する自身の考え方や課題などを披露しました。



中川一氏 田嶋勝正氏 大西賞典氏 上総周平氏 横川貢雄氏

新都市社会技術融合創造研究会

委員長 京都大学理事・副学長 大西有三氏

11/1 [火] 16:00-17:00

「東日本大震災から東南海・南海地震へ～新技術がどのように生かせるか～」を総合テーマに、橋梁・トンネルの新しい維持管理手法や、新しい盛り土構造の耐震性などに関する研究を紹介しました。



来場者数 11/1 [火]・2 [水] 延べ14,236人

技術出展 8つの分野に約350技術が集結

技術分野	出展者数	ブース数
防災	19	21
環境	23	26
コスト削減	14	17
安全・安心	28	41
施工	29	39
IT・ロボット	3	4
団体	9	12
学校	12	12
合計	137	172

土木実験・プレゼン大会

～どうして?なぜ?が一目でわかる～ (土木学会関西支部)

11/1 [火] 14:30-16:30

土木がつくる施設や工事について、一般の方々にも、わかりやすく親しんで興味を高めてもらうように、平易な実験 (PC橋、地震・地すべり、ガスの地震・防災対策、津波) を取り揃え、プレゼン大会を行いました。



学生のためのキャリア支援

～相談にのります、将来への道づくり～ (土木学会関西支部)

11/2 [水] 13:00-15:00

土木業界を代表する産・官の業種 (官公庁、高速道路、鉄道、総合建設業、建設コンサルタント、橋梁メーカー) から、実際に働いている方々に来ていただき、学生のみなさんに今後のキャリアパスを考えるための参考にしてもらいました。



技術研究発表

11/2 [水] 10:00-11:00

国立明石工業高等専門学校教授の鍋島康之氏が、自然の樹木を保全しながらも地盤表層の拘束力を高め、地震や豪雨に強い斜面安定工法に関する研究発表を行いました。